

馬入川橋梁工事中（西橋臺より望む）

大震害に因る鐵道復舊工事

鐵道省工務局長 後 藤 佐 彦

大正十二年九月一日の大激震は我國鐵道に創設以來の大慘害を與へ、神奈川縣下を中心とし東京、千葉、埼玉、静岡、山梨及茨城の一府六縣に及びまして東京鐵道局の所管に屬するものなるが、災害の經濟的影響に至つては實に全國に及びしものと謂ふべし。激震突發後は通信杜絶し、被害狀況の調査等には多大の苦心を要せし事言外にして、其應急工事の如きは東京市外各方面の應援の下に各員至誠奉公殆ど私事を放擲して事に當りたり。然も國有鐵道多年の訓練と各員の責任觀念は斯かる非常の際に於て能く秩序を保ち鐵道本來の使命を完からしめたり。次に災後の應急及び復舊工事の概要を述べし。

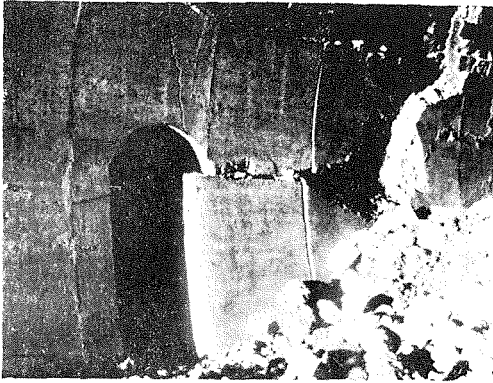
大震災に因る鐵道全般の應急費は總計約千九百萬圓を要せしが之が復舊費は約五千萬圓にして、就中鐵道線路及び建造物の復舊工事其大部分を占め費額大略三千萬圓に達す。被害の區域は東海道線、東北線、常磐線、總武線、中央線等各線に亘り即ち西は東海道御殿場、熱海、中央線與瀬、東は土浦、房總半島一圓、北は大宮に達し其地域實に數百哩に及びり。

被害の種類に至つては線路の決潰、龜裂、陷落、橋梁隧道の破壊、建物の倒壊、燒失等各般に亘り到底枚舉し難し。

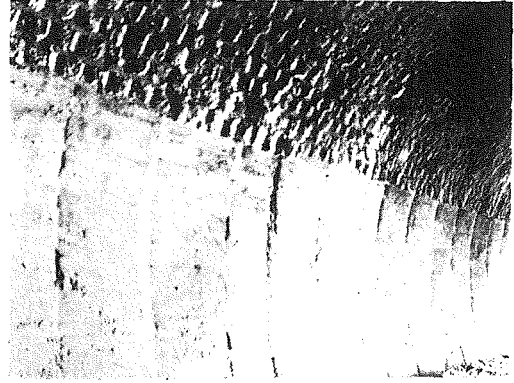
被害の最大なりしは熱海線にして、殆んど全滅と稱するも過言に非ず、其他東海道線馬入川の橋脚破壊、橋桁の墜落、山北駿河間第三號第四號隧道間に於ける土砂の大崩壊、駿河御殿場間第四相澤川附近切取の崩壊、橋梁の破壊、高島驛地盤の陷落、護岸石垣の倒壊、中央線與瀬上野原間に於ける隧道破壊、總武線上總湊驛附近湊川橋梁破壊、岩井富浦間に於ける南無谷隧道土砂崩壊等は被害の甚大なるものなり。

大震災後の應急工事は分秒を争ふ急速工事なる故、震災地以外の鐵道關係者及び鐵道聯隊の應援を得て二十餘の工事分擔部署を定めて總て直轄工事をなし、工事箇所毎に材料人夫を適當に採用し、各員も一意奉公の精神を以て萬難を排し疾風迅雷的に工事を進捗せしむる處ありたり。

線路の開通は品川、六郷間の九月四日を第一とし、横濱品川間は九月七日に開通し、其他漸次開通を見、十月二十八日東海道線全部



(1) 熱海線根府川眞鶴間長 坂山隧道坑内側壁崩壞の光景
(1) Interior of the Nagasaka-Yama Tunnel After the Earthquake.



(2) 熱海線根府川眞鶴間長 坂山隧道坑内復舊工事竣成後の現況
(2) Same Relined.

を開通し。斯くて十二月三十日迄には熱海線を除く他の線路は全部開通するに至れり。

應急工事後の復舊工事は大正十二年十月中旬迄に大略の測量調査を終り、以て大體の計畫を了せしが、之が施行は到底在來の機關のみを以て達成し難きを以て、東京鐵道局の新橋上野千葉の三保線事務所、東京第一、第二兩改良事務所の一部を管掌せしむる外、特に國府津に改良保線二事務所を、又千葉に一改良事務所を増置し復舊工事に當らしむるこまこせり。一方豫算を議會に提出し、大正十二年度より大正十五年度に至る四ヶ年繼續工事として協賛を経る處ありたり。

右の内、國府津改良事務所の所管區域は東海道線鶴見以西熱海線横須賀線横濱線を含み被害最も大なるを以て分擔すべき工事の分量實に多大を極むるは其復舊工事費が約千三百五十萬圓に達するを以て窺知するを得べし。國府津に保線事務所を設けたるが如きも一に東京鐵道局が營業使用しつゝある線路を修理復舊するものなるを以て營業上苟も事故を發生すべからざるを慮れるに外ならず。復舊工事の件数は千餘に及べるが其中重要なるものを擧ぐれば左記の如し。

熱海線 酒匂川、玉川、白糸川橋梁工事
同 國府津眞鶴間工事

東海道本線 馬入川橋梁新線工事、同 駿河、御殿場間線路付換工事、同 三號 四號

間隧道工事、同 高島驛構内及護岸復舊工事、同 六郷川橋梁工事
總武線 南無谷隧道工事、同 湊川橋梁工事
常盤線 利根川橋梁工事
東北線 荒川橋梁復舊工事
中央線 與瀬隧道工事
市街線復舊工事 新橋、横濱、櫻木町其他東海道線各驛舎工事、兩國橋北條等總武線各驛舎工事、萬世橋、神田、御茶水、飯田町等中央線各驛舎工事、本省廳舎、教習所、病院等諸建物工事

此等の諸工事は震災に鑑み其の強度上十分の考慮を施さざるものなきは勿論、設計上幾多の苦心考案を施せるもの少からず。熱海線玉川、東海道線馬入川、六郷川、常盤線利根川橋梁、箱根三號四號隧道、高島驛岸壁ケーソン、新橋驛改築の如き、其設計は他に類例少なき特別の設計を採用せり。

今や叙上の諸工事は豫定以上の進捗をなし約八分通りの完成を見たるは一に従事員諸士の献身的奮闘の賜に外ならず、爾來豪雨出水に際會するも豫想外に被害の著しきものなきは全く復舊工事進行宜しきを得たるご設計施工間然する處なきに因るものにして深く感激せる處なり。尙最後に工事施工上幾多の困難ありしに拘らず、良好なる工事成績を挙げられたる請負人諸士の努力に對しても併せて満腔の謝意を表するものなり。(十四年八月)